

仲間づくり教養コース ②国際社会学

アメリカトランプ号出航一年、その政策を読み解く

第4回 トランプ政権の外交①

アメリカ・ファーストの思想を読み解く

日時 2月3日(土) 10:00 a.m.~

場所 鶴瀬公民館 第三集会室

講師 田中 靖宏 氏 (A.A.A連帯委員会代表理事)

受講生 35名

第40期の国際社会学講座は「アメリカトランプ号出航一年、その政策を読み解く」と題した前半3回を終え、本日から後半に入りました。

今回から、田中講師による政治面から見たトランプ政権の政策についての講義が始まりました。2週間前に4年振りとなる大雪に見舞われ、いまだその雪の一部が消え去らない中、昨日またまた雪化粧。受講生の足が心配されましたが、熱心な方々に多数ご参加頂きました。

田中講師は、以前にも講義頂き受講生から大変好評であった方です。今回講義のポイントは、「あの暴言とも云えるトランプの支持率が何故36%から下がらないのか」と「毎日8回とも云うツイートは、誰に向かって発信しているのか」でした。その何故は、ジャクソン主義にありました。

トランプ政権の登場はなぜ、36%の支持が下がらない理由

○白人忠さん階級の反乱

- ・45~60歳の白人死亡率が2000年以降22%に上昇
原因は、自殺、アル中、麻薬の増加、1999年~2013年に488,500人
- ・1985年から30年間に6割の国民の所得が低下
一方、医療費が320%上昇、大学授業料は実質5~6倍に

○白人が少数派に

- ・子供の半分以上は非白人、まもなく20歳以下は少数派に
- ・資産はヒスパニックは10分の1、黒人は16分の1

○トップ0.1%に富と権力が集中

- ・所得格差の拡大
- ・不公平税制
- ・政治腐敗：ロビイストの支配、ヒラリーのメール問題、政治資金事実上自由に

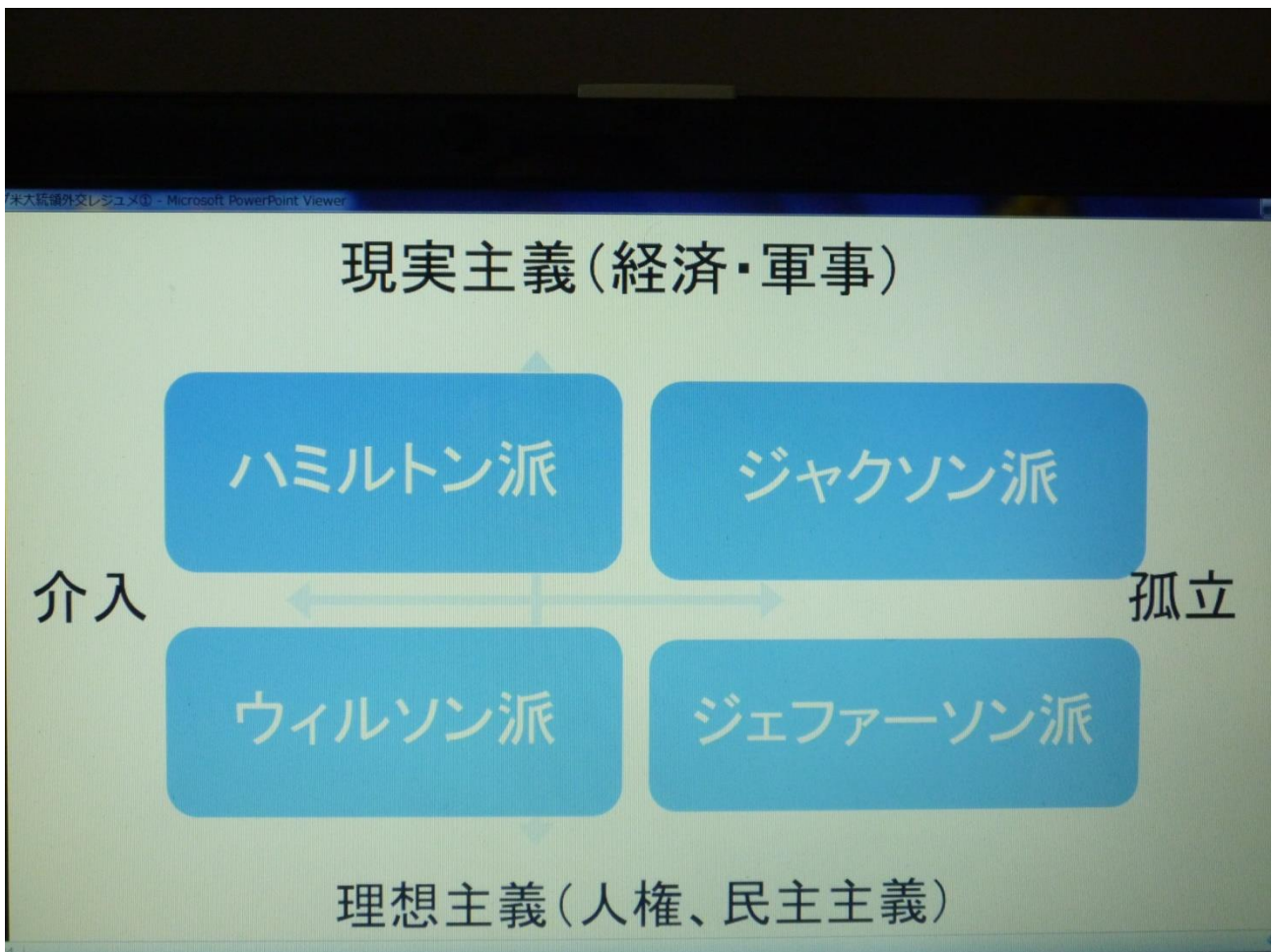
○人口構成の変化

- ・2つの爆弾~医療とアフターマティアクション

米国の分裂は進み、民主主義の復活による克服は困難な課題

アメリカ外交4つの考え方

- ハミルトン派
 - ・政府と大企業の同盟が力の源泉
 - 世界経済を米国に有利な大成に統合することに注力
- ウィルソン派
 - ・世界に民主主義と米国の価値観を広げて、平和な国際社会を作ることが米国の義務であり国益
- ジェファーソン派
 - ・国民の安全と福祉が大事
 - 外国と不本意な同盟を結んで、戦争の危険を冒すべきでない
- ジャクソン派
 - ・ナショナリスト、一国主義、好戦主義



なぜアメリカは戦争が好きなのか

ジャクソン主義の伝統と米外交政策 (ウォルター・ラッセル・ミード)

「ナショナル・インタレスト」誌 (1999/2000 冬季号)

- 太平洋戦争末期～日本空襲で死者5カ月で約90万人
- ヒロシマ、ナガサキ原爆21万人

3/9-10 東京空襲 B29機 1167機の焼夷弾投下 死者 83,793人

(朝鮮戦争とベトナム戦争での米兵死者 80,942人)

○朝鮮戦争 (1950-53年) ~北朝鮮の死者 100万人と推定 (人口 949万人)

○ベトナム戦争 (1962-75年) ~第二次大戦の3倍の爆弾を投下

ベトナム民間人 365,000人を殺害

大義を掲げながら、なぜ容赦のない戦争をするのか

○世論が戦争を煽り、冷戦時代はタカ派が優位に

インディアン戦争、南北戦争、第二次大戦の大量爆撃、核兵器の使用

○海外への軍事介入の支持はなぜ

世界の2分の1の軍事支出を支持、海外に最大の部隊を展開、ウォー・ロビーの展開

==これこそがジャクソン主義

米国は戦時体制にある 戦費

1980年以來、イスラム諸国の**14カ国**に**軍事介入**(侵略、占領、空爆)

米軍特殊部隊は2015年中に**147カ国**で**作戦**

海外軍事基地は、秘密作戦の基地や施設をいれると1000以上

38カ国に**662の軍事基地**、148カ国に現役軍人を常駐させ、このうち56カ国

に10人以上、13カ国に千人以上を常駐。海外基地の維持費用は**毎年**

1000億ドル (デービッド・バイン「基地国家」2015)

対テロ戦争(2001~2014)費用 4兆3750億ドル(約 500兆円)

軍事費は毎年6007億ドル(約68兆円、2015会計年度)、

中国の3倍、以下の7カ国をあわせた額に匹敵する。

1980年以來、中東地域「防衛」軍事費は7.3兆ドル(830兆円)

ジャクソン主義の特徴

○無制限の連邦政府権力を疑い、連邦税に反対

○エリートへの猜疑心

○州や自治体の権力を望む

○ベトナム戦争時代は、ジャクソンとジェファーソンは分裂

ジェファーソン派は、ハト派で反対

ジャクソン派は、タカ派で戦争支持

○憲法重視

ジェファーソン派は、言論の自由（第一条）

ジャクソン派は、銃の自由（第二条）

ジェファーソン派はACLU、ジャクソン派はNRA（全米ライフル教会）

○外国への関与を嫌悪

温暖化対策、国連、IMF、海外の家族計画援助（ウィルソン主義）に反対

ジェファーソン派の対話重視やハミルトン流の貿易政策に反対

○知性や政策より、地方の共同体に根づく思想

ジャクソン主義の発展

○移民の大量流入で、多様な価値観への反発

○逆転とジャクソン主義への同化現象

○サンベルトのアメリカ魂

○デキシークラット（南部民主党）、人種主義の白人民主党

○ケネディ・ジョンソンの公民権に反発

○ニクソンの南部戦略とレーガンの踏襲

○共和党右派、白人至上主義、キリスト教原理主義の根拠地

ジャクソン主義者の信条

○名誉（HONOR）を重んじる独立独歩の精神

○平等を尊重（版権威主義）

○個人主義

○金融精神

○勇気と決闘

○共同体の内外を区別

○政策より文化と伝統を重視

○イデオロギーでなく本能、直観を大事に

ジャクソン主義の外交政策の特徴

○リアリズムに基礎

○国際法や国際機関を尊重しない

○平和は悪魔の計画という悲観主義

○国家の威信と名誉を重んじ、戦争を辞さない

○戦争のやり方に、明確な基準を持つ

○限定戦争を押し、敵の闘争心を奪うまで遂行

○勝利に代わる代案はない

○勝利の後の寛大さを示す

ジャクソン主義、二つの問題と変化

○二つの問題点

①ハミルトン派やウィルソン派が世界に行った約束と、ジャクソン主義者の実行の間のギャップの問題

～法の秩序や国際体制、それを支える限定戦争や関与などに、ジャクソン主義者は抵抗し、反対する

このギャップを、どう埋めるのか

②ある外交問題にフォーカスするのに時間がかかる上、いったん決まるとなかなか変化させにくいという問題

～ベトナム戦争への参加に賛成に時間がかかったが、目標達成しないまま撤退することについて、強く反対した

中国とベトナムと対決すると、その正常化交渉はさらに難しくなる

この対立が昂じていくと、人民の信頼そのものが崩壊しかねない



<ウォルター・ラッセル・ミードの著書から、ジャクソン主義の伝統を解説される田中講師>

【文責：秋山孝昭】